

港湾内海水における放射性セシウム濃度の深さ方向の サンプリング調査について

2016年11月24日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

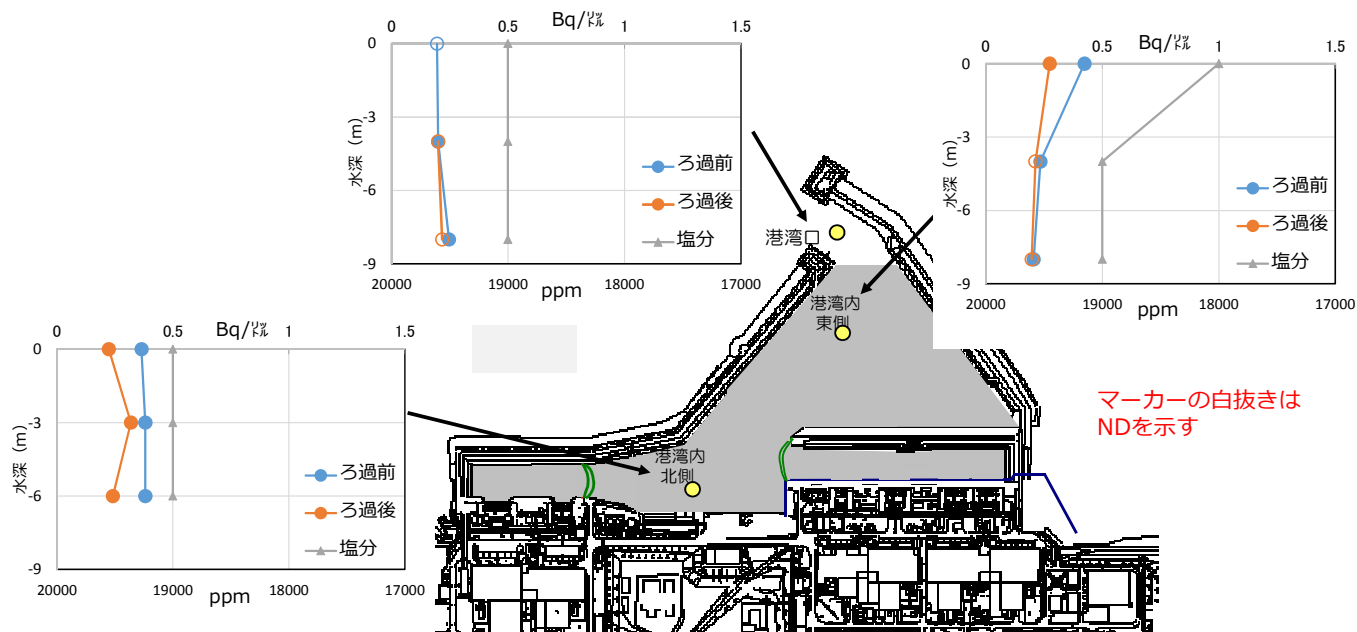
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

港湾内海水における深さ方向のサンプリング調査について

TEPCO

- 港湾内外の海水放射性物質濃度は海側遮水壁など種々の環境対策が図られることによって低下してきている。
- 一方、海水試料は表層水をサンプリングしていることから、港湾の状況変化に併せて底部付近の海水のモニタリングを行い、港湾内から港湾外への影響について深さ方向の分布を適宜確認してきた。
- これまでの結果では底部付近のセシウム137濃度は表層と同等か低い値であり、表層モニタリングで港湾外への影響確認が可能であると評価された。
 - ✓ C排水路付け替え（2014年6月）：2014年7～8月調査（海底土被覆前）
 - ✓ 海側遮水壁閉合（2015年10月）：2015年10月調査（海底土被覆後）
- 今年3月にK排水路の付け替えが行われ、6月に新設排水路が運用開始により土壌汚染の高いエリア、もしくは発電所敷地内で汚染水を扱うエリアから港湾へ流入する経路が整備されたことから再度調査し、変化がないことを確認した。
 - ✓ 調査地点：港湾内東側、港湾内北側、港湾口
 - » 1～4号機取水路開渠から港湾外へ放射性物質が移動する経路を推定し選定
 - ✓ 調査日：2016年10月19日 9～10時（晴）
 - » 港湾内から港湾外への流れとなる引き潮

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社



- 底部付近の水質は、セシウム137濃度ではこれまでの結果と同様に表層と同等か低い値であった。塩分濃度についても表層と同等か高い値であった。
- ろ過前後で明確な変化は見られなかった。
 ✓ 粒子状のセシウムは少ないと考えられる。(イオン状、もしくはコロイド状で存在している)

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

<参考> 2015年12月28日公表資料

1. 概要

目的

港湾内海水における放射性セシウム濃度の深さ方向の状況を把握

調査地点

港湾内7地点（1～4号取水口開渠外）において、海面（水深0～0.5m）から海底付近（海底の直上0.5m）までの3つの深度におけるCs-137濃度を調査（2. 調査地点位置図 参照）

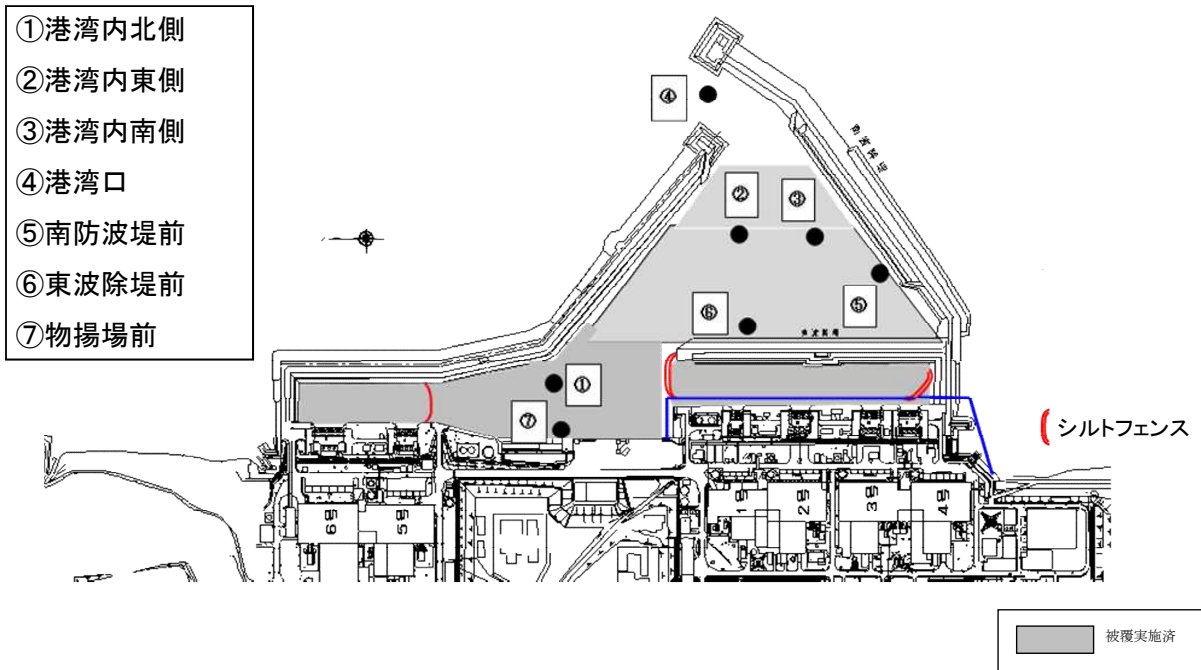
調査日時

2015年10月14日（水） 9:20～10:28（潮の流れが小さい干潮時）

結果

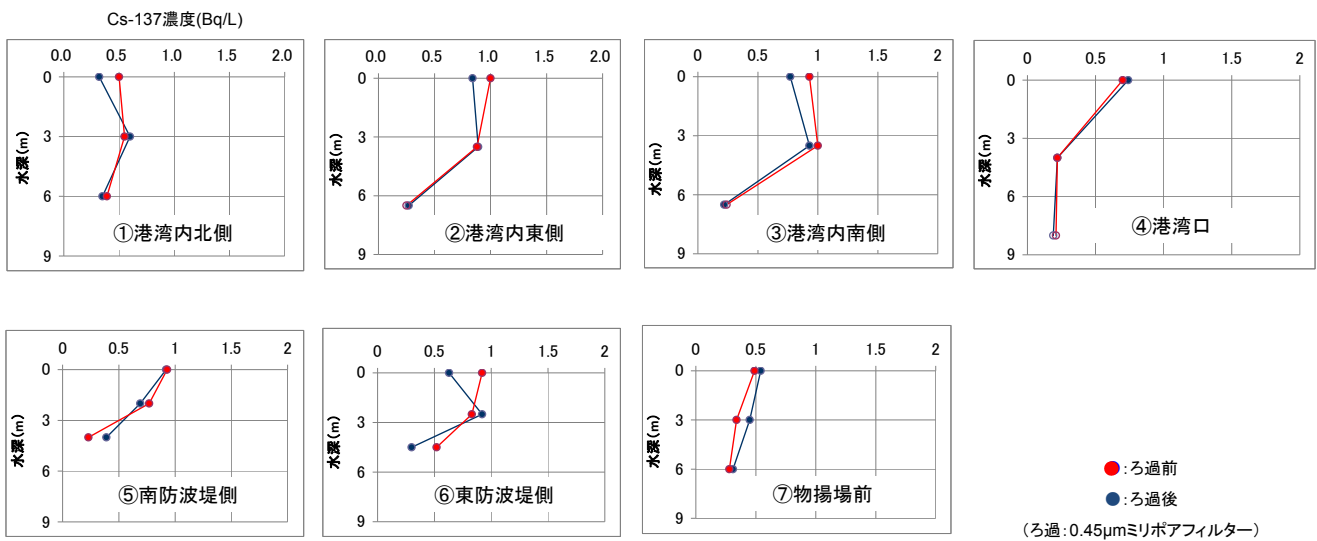
調査した7地点のいずれにおいても、海底付近におけるCs-137濃度は、海面の値に比べ、同等若しくは低かった（3. 測定結果 参照）。

2. 調査地点の位置



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

3. Cs-137濃度の測定結果



Cs-137濃度はいずれの地点、いずれの深度においても、1 Bq/L以下で同等若しくは低く、測定の精度、時間的な変動を考慮すると深度による違いはないものと評価。

(参考) 東波除堤北側(開渠内)の海水セシウム濃度(ろ過後)の深度分布 **TEPCO**

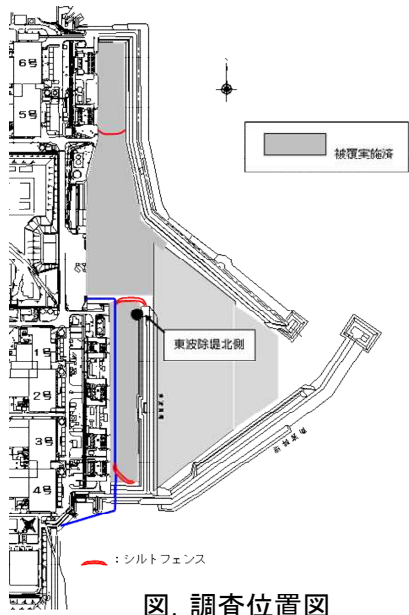
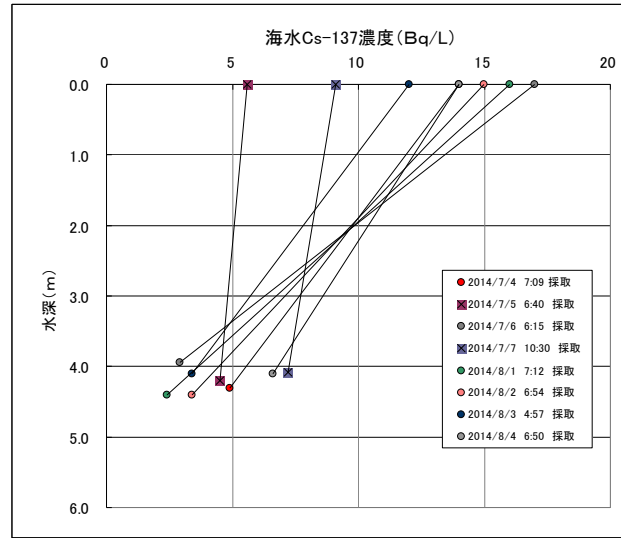


図. 調査位置図

【Cs-137濃度の測定結果(2014年7月~8月調査)】



※ サンプルング深度: 表層(水深0~0.5m)、海底の直上2m

<参考> 2015年10月調査時の塩分濃度分布

